

令和7年度第2回伊達市男女共同参画審議会 会議録

●概要

日 時	令和8年2月25日 10:00~11:30
場 所	伊達市役所 東棟4階 405会議室
出 席 者	藤野会長、齋藤委員、三浦委員、小野委員、渡邊委員、遊佐委員、大畑委員、田中委員、丹治委員、岡部アドバイザー
伊 達 市	事務局 未来政策部長 齋藤 康弘 協働まちづくり課長 板垣 厚志 協働まちづくり課 協働推進係長 小野 栄樹 協働まちづくり課 協働推進係 主事 難波 凜樺
会 議 事 項	1 開会 2 協議事項 (1) 男女共同参画 WEB アンケート調査結果について (2) 令和7年度実施事業について (3) その他(令和8年度男女共生のつどいについて) 3 閉会

●発言内容等

1. 開会

司 会(協働まちづくり課 板垣): 開会

2. 協議

司 会: 次に協議事項に移りますが、伊達市男女共同参画審議会規則第3条第2項により会議の議長は会長が務めることとなっておりますので、藤野会長よろしくをお願いします。

会 長: それではしばらくの間、議長を務めさせていただきます。  
まず「(1) 男女共同参画 WEB アンケート調査結果について」の説明をお願いします。

～配布資料の確認、資料1、資料2を用いて説明～

会 長: ありがとうございました。ただいまご説明いただきました事項について、委員の皆さんからご意見・ご質問があればお受けしたいと思います。

三浦委員: 令和6年度からインターネットの調査が始まったと思うのですが、回答する方の母数はどのくらい減った、又は増えたのですか。

事務局： 母数については、きちんとした数値を把握しておりませんでしたので、後ほど確認させていただきます。申し訳ありません。

大畑委員： 冒頭に男女共同参画の意識が強い方の回答が多いかもしれないという話があったと思いますが、公務員に回答が集中しているような感じがして、事務局でもおっしゃってましたが、これって本当に市民の声なんですかっというのが気になりました。出来レースじゃないのって言いたくなります。普通の会社員の人や農家の方の考えが反映されていないんじゃないかっていうふうに聞いてました。

事務局： アンケートの周知は、広報誌やホームページ、SNS、あとは施設へのチラシ配布というところで実施をさせていただきましたけれども、庁内の掲示板の方でも周知をしております、そこから回答した方が多かったため、その分公務員の割合が高くなってしまっていると考えられます。他の業種の方にも回答を促せるような形にできればもっといろいろな意見を取り入れることができるのかなというふうに考えております。

大畑委員： 私も男女共同参画審議会の委員をやっていながらこちらのアンケートを実施したことも知りませんでした。これってやる意味あるのかと思ってしまう。

会 長： ウェブアンケートを実施するにあたって、周知の仕方を少し工夫しないといけないと思うんですね。今ご指摘があったように、庁内ではある程度見ていただく方がいらしたとしても、外の方の声をどうやって拾うかが大事なので、アンケートを実施しますということを積極的に企業の人事の方のところに持って行って、企業の中のネットワークで流していただくとか、ちょっと時間を割けば回答できるものなので、ある程度の規模のある企業にはこちらからお願いするというやり方をしないと、偏りが大きいと私もこれを見て思いました。加えて、この報告書を作るときに、職業と男女の人数と年代別については令和3年、令和6年、令和7年で並べて過去の状況も入れた方がいいと思います。

会 長： 皆さんからも、どういう形でこのWEBアンケートの周知を図ればよいか何かアイデアがあればありがたいと思いますがいかがでしょうか。

大畑委員： 今会長がおっしゃったことそのままになりますが、企業は今結構男女平等とかに敏感で、そういうところを自分たちもやってきたいんだっというのはあるものですから、お願いしてやってもらえるかは別ですけども、そ

こは企業さんとかに協力してもらうのがいいと思います。当社もやっぱりいろいろそういう時間の平等であったり、女性の雇用であったりというところには敏感ですから、企業にお願いしていくのがいいと思います。

田中委員： 私も最初この資料をいただいたときからちょっと気にかかっている、今回の回答状況 89 人っていうのは、全体の 1 %にも満たないですね。私もこの調査をやっているというのはわからなかったし、今企業さんをお願いするっていう話も出ましたが、それも何となくそういう意識の高い企業さんの社員の方の回答は来るだろうけど、意識の低いというか、あんまり考えてない会社さんはそもそもやらなかったり、となるとそういうところの声っていうのはやっぱり拾われなくなることになるので、と考えるとやはりこの令和 3 年実施の無作為調査で最低 1 割ぐらいいは回答してもらえそうな状態にして、どうせやるならちゃんと調査しないと、何かこの 89 人で 40.3% が平等になってないと感じると言っているのも何かちょっとおかしい気がします。

三浦委員： 以前出席したときにも今のような話があって、紙による調査っていうのは当然費用かかるので、これまで 5 年に 1 回しかやっていないという中で、次回令和 8 年まで何もしないでいるよりは、何か費用の負担はない形で、インターネットで調査したらどうですかっていうのが多分 WEB アンケート導入の経緯だったと思うんですけど、その点で言うと、何もしてないよりは、こういった形で意識調査をしたこと自体は、進歩かなとは思っています。ただ、やっぱりこういった新しい課題も出てくるので、その課題に対してやっぱり 80 人とか 90 人だと、1 人の回答によってだいぶパーセンテージが変わってくるので、ちょっと母数を増やしていくっていうことが課題かなと思います。令和 6 年、令和 7 年にネット調査をしたということに対して次回どうするかというところが一番大事かなと思います。さっき大畑委員がいったように、例えば会社員だけじゃなくて、農業の分野に行くとまた違った回答になると思いますし、いろんな分野に対してアプローチをかけていくっていうことが一番かなというふうに感じました。

会 長： あくまでも参考として回答を集めるということなので、令和 3 年のようなシステムチックな調査はできないとしても、ちょっと働きかける先を工夫するという事は、あってもいいと思うんですよね。ですから今お話があったように、企業とか農業関係の団体とかあるいは町内会といった働きかける場所をピックアップしてお願いをするという形で、広く周知をし、ネットを使う方であれば、ほんの 5 分とか 10 分とかで答えていただければと思います。皆さんもこういうお願い先がありますよというアイディアがあれば出して

いただきたいと思います。

三浦委員： 大畑委員の所属している連合会とかっていうところをお願いすることもできたりするんですか。

大畑委員： できると思います。

三浦委員： 福祉関係のところであれば、社協さん通じて案内することもできると思いますし、各業界にいらっしゃる方をお願いすると比較的周知はできるのかなと思います。

齋藤委員： 我々も幼稚園協会、保育園協会の連合会ってあるんですね。そこに各施設の分野の方々がおりますから、数値的に高めていくのであれば、もう少し多くの方々に認識していただくっていうことは大事になってくるのかなと思います。

事務局： 皆様にご協力いただける部分もお話いただきまして、お願い先を今後工夫していければなというふうに思います。

来年度につきましては、令和3年から5年経って無作為抽出の市民アンケートを実施するため、WEBアンケートの方は実施しない予定ではありますが、令和9年度については今ご意見いただいた形で検討していきたいと思えます。

三浦委員： 一般的な企業でこういうアンケートをやるときは、回答数を増やすために、例えば500円のクオカードを100名様に配りますとか、そういったインセンティブみたいなことをやってるところもあったりするので、抽選という形にすると、予算あるかわからないですが、500円のクオカードを10名分なら5千円、100名分なら5万円というふうに幅も、市の予算の中で多少調整できると思うので、そのあたりも考えていくと数は増えてくるかなと思います。

大畑委員： すみません、少し話が横道にそれてしまうのですが、提案です。このアンケートって、事前に配られているじゃないですか。今もう30分経っていますが、結構いろんな団体の方がいらっしゃる中で、私もいろんな人の意見聞くの好きなので、アンケートの内容の説明に時間を割くよりは皆さんの意見をきける建設的な時間にしていただきたいと思います。アンケートの32ページが、市としての考えになると思うんですが、ここからどうしていくんですかって意見を聞くのが一番重要で、皆さんの意見を聞ける機会

だと思っておりますので、やっぱり事前にお配りしているのであれば、事前を目通していただいて、アンケートに質問ありますかぐらいの話からスタートした方がこの30分はもっといい時間になるんじゃないかなと私は思いますので、ぜひ次回検討していただければと思います。

会長：他に、アンケートを見ていただいて、皆様からご質問、ご意見あれば伺いたいと思いますけれどもいらっしゃいますか。

渡邊委員：これから暖かくなるので、どこかの市立幼稚園の子供たちに協力してもらって、こういうことをいつどこでやるよっていうのを書いていただいたのを大泉公園とかに貼ると、公園に行ったときに、これうちの子が書いたのとか、うちの孫が書いたのっていうアピールになりますし、周知になると思います。

あとはさっき抽選でクオカードっていう話もありましたけれども、霊山こどもの村は入場料が高いのでなかなか行けないですが、そのアンケートに答えることによって、無料にしますとか、半額にしてくれるとか、乗り物券1枚あげますよとか言っていたら、とても喜んでこれからの季節いくと思います。

また、ネットとかに疎い年齢の方とか、忙しくてそれどころではないっていう方もいらっしゃると思うので、伊達市には屋外の施設も結構あちこちにありますが、そういうところで子供たちが遊んでいる間に、アンケートをお願いするとか、これ書いていただけると帰りにポケットティッシュくれるとかっていうのだけでも、親御さん書いてくれると思うので、文面だけを配るよりも、自分のお孫さんがチラシを書いたりとか自分のお子さんが書いたとなると、結構見てくださるのではないかなと思いますし、そんなに資金かけなくてもいいのかなと思います。

小野委員：このアンケート調査なんですけども、回答した人のうち公務員が約44%ということは、結果にかなりの偏りがあるというふうに見ても仕方ないのかなと私は思っていて、やはり無作為に抽出した幅広いアンケートのとり方をしないと実態っていうのはちょっとわかんないんじゃないかなと思います。いままで意見もあつていろんな方策があると思うんですけども、この結果を見る限りは、ちょっと偏っていると言わざるを得ません。農家の方もほとんど入っていない調査ではちょっと不備ではないかなと思います。もうちょっと広範囲のアンケートを取る方策を考えたらいいのかなと思います。

丹治委員：私も事前に送られてきたので全部目は通したんです。だから今、大畑委

員がおっしゃったように、ここで説明を受けて話すっていうよりも、事前に読んで、それぞれの審議委員の方がどんなふう感じたかっていうのを聞いてもらった方が良かったなっていうふうに思いました。

事務局： 今後この会議のあり方は考えていきますので、事前に資料を読んでいただき、皆さんにご意見いただくというのを中心にしていきたいと思います。

あとやはりアンケートの回答者に偏りがあるというのは、こちらでも思ったところなので、農業の方少ないということであれば JA さんを通じてアンケートをお願いするとか、機会を捉えて幅広く皆さんの意見をいただけるようアンケートの方法も変えていかなければいけないと思っています。

令和3年の男女共同参画のプラン改定のためにアンケートをやったときは、やはり幅広い意見いただくということで無作為で実施しましたがけれども、事後調査っていうもある程度偏りなく、なるべく数増やしてまんべんなくご意見いただくよう、アンケートの方法を考えていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

会 長： 今回のアンケートについては依頼先を工夫するっていうことが一番の課題かと思っています。来年度は令和3年度同じような本調査という形で実施されると思いますけれども、その次の調査については工夫をしていただくということで、それまでの間に皆様からまた新たな方策があればご提案いただきたいと思っています。

三浦委員： 8年度のアンケートも郵送以外にネットで回答できるということですか。

事務局： その予定です。インターネットでも紙でも回答できるようにしたいと考えております。

三浦委員： であれば8年度も回答する方を増やすための方策はやった方がいいと思います。

会 長： 本調査とWEBアンケートは別途やるのではなくて一緒に実施しますか。令和3年度と同じようなやり方をするのであれば、それはそれ、WEBはWEBで数値を分けないときちんとやった調査の意味がなくなってしまうので、一緒にはしない方がいいと思います。

三浦委員： 令和3年度も回答方法は紙とインターネットと書かれておりますが。

田中委員： 今少し話が混同しているかと思うのですが、紙でもネットでも回答でき

る市民アンケート調査があつて、それと同時に今年と同じWEB調査も混ぜずにやってもらうと、無作為抽出されたアンケートと自主的に回答されたアンケートでどういう傾向があるのかというのもわかってくるのかなという風に思いますので、どちらもやるのであれば分けてやるといいと思います。

会 長：そうですね。両方やるのであれば、分けていただくのが良いと思います。

大畑委員： 一つ市に質問してもよろしいですか。

このアンケートの32ページの結果の考察から、市はどのように考えていらっしゃるのかなということが気になっています。例えばですけれども、町内会の女性の参画についての取り組みが必要であることがわかったとありますが、どういうふうに町内会に呼びかけていくんですかというところとか、あと仕事を優先したい人はいないけど現実には仕事優先になっているというところで、企業に対してどう働きかけていくんですかっていうところが見えないっていうのが一番気になります。私はやっぱり現役世代なので、仕事と家庭のバランスを重要視しなきゃいけないというところで、市の例えば税金であったり、交付金とか公共施設とかそういう面でも、どういうふうにしていけばここがクリアできるんですかっていうところを教えてくださいというか、そしてそれを今度は自分が帰って会社に伝えることによって会社や伊達市の人たちが豊かになっていけば、それが一番いいと思ってます。

齋藤委員： 大畑委員と同じなのですが、私もこの資料見させていただいて、子育て支援の充実を望んでいるということなのですが、我々職業としてかなりサービスを提供しているわけですよね。どんなことがまだ足りないのかという具体的な内容を私も知りたいとすごく気になったところです。20代の方々がどんなサービスをもっともっと提供して欲しいっていうことを願っているのかなという。なので、8年度のアンケートの実施のときにはもう少し細かく聞いて、アンケートから何が出てきたものについて議論するところがほしいかなと思います。結果の大枠はわかったんですが、中身はどんなものを要求しているのかというところが私は知りたいので、そんなところも考慮していただければありがたいです

事務局： 現在のアンケートでは、どのくらいの方が平等に感じている・いないのかという部分で終わってしまっている部分がありますので、実際には平等になるために何が必要なのかっていうところは、きちんと調査などをして把握していく必要があるのかなというふうに思います。

大畑委員： この考察から私たちに何か文章をいただきたいような感じなんですけれども、今後こういう方向で進めていきたいですとかっていうのが見えてこないんですが。

会 長： 今後どう事業を進めていくのかを話し合うのがこの審議会になると思います。この後事業の話が出てきますけれど、そこで皆さんのご意見をいただいて、それを届けるのがこの審議会の役割です。今回はアンケート結果を受けて私達から審議会としてどういう提案をするかということになります。

会 長： 先ほどご提案がありましたけれど、アンケートを実施するときに、大項目だけで回答が終わらないような形で、例えば、子育て支援を充実させて欲しいと回答した方に、具体的にどういう施策を望んでいますかといった下位の質問とか、あるいは自由記載欄を加えて具体的なご意見をいただけるといいですね。

三浦委員： それもとても大事だと思うんですけど、今母数をどんどん広げるということも大事だと考えると、あんまり質問を細かくしないことも大事かなというふうに思います。今回幅広く取った中で、全部が全部解決できるわけではないので、一つ一つテーマを絞りながらやっていって、例えば伊達市の審議会の中では子育てに関して取り組んでいこうという方向になればその設問を細かくしててもいいですし、さっきの地域社会の問題があるんだったら、そこをちょっと詰めていこうかなというように、全部が全部細かくなり過ぎると回答が面倒くさいという方が増えてしまうので、その辺りのテーマを絞って細かくしていくということが大事かなというふうに感じました。

会 長： 今回のアンケートの最後についている自由記載欄に結構具体的にいろいろなみなさん書いてくださっていますので、そういう欄があれば、ある程度具体的なご意見拾えると思います。こちらは参考になると思います。

アドバイザー： 今審議会のお話を聞いて思ったんですけども、基本的に男女共同参画というのは意識啓発の部分がすごく強くて、アンケートも、例えばその男女平等がどうだとか、仕事と家庭との両立はどうかといった、そういう意識を調査する内容になっています。具体的に子育て関係の施策をどう考えていくかっていうのはおそらく子育てに関係する部署がやっているんで、ここにアンケートで書いてくれたことを相互に、庁内で連絡を密にしていくのが大事なかなと思います。あ

と逆に子育ての部局でやっている政策を参考にしたり、もしくは関連する課が相互にこういう意見があるから、今やっているものをブラッシュアップしたりみたいなことをやっていくのがすごく大事なのかなと思います。

男女共同参画は何でも関連するので、協働まちづくり課で全てをやるのは結構難しいと思います。伊達市で男女共同参画プランがあってそれに紐づいた取り組みがあって、例えばアンケートの中で男性の家事育児の負担が少ないということに対して、市では親子料理体験といったそれに合致した事業を実際にやってらっしゃると、ただやっているにも関わらず、思ったよりも意識の部分にはなかなか反映されない、とはいえ意識ってやればすぐポンッと跳ね上がるわけでもない、というその辺の難しさはあるんですけども、ただ大きな方向性としてそこでは間違っていないなっていう確認はできると思うので、そういう視点で見ていくといいのかなと思います。

ただ市民の皆さんから直接ご意見をいただく機会っていうのはすごく貴重だと思うので、協働まちづくり課以外の部署に働きかけるような感じが一番望ましいのかなと思います。

県の男女共同参画審議会では、商工労働とか農業とか教育委員会とか、関連する課が全部出席しています。なので男女共同参画担当部局だけじゃなくて、委員の方もその場でいろんな部局の人に質問したりする環境が出来上がっていて、全庁的に男女共同参画やるんだということになってるわけです。

ただ市町村の場合はそれぞれやり方であったり、その規模の大小というのがあったりするので、何でも県の体制でやらなければならないことはないんですけども、ただ審議会のほかの課の人がいないとしても、そのアンケートだったり、各プランでやっている具体的な事業とかっていうのは関連する課でお互い共有してくような形が望ましいかなと思います。

会 長： それではWEB アンケートについてはこのくらいにして、「(2) 令和7年度の事業予定について」ご説明をお願いします。

事務局： ～資料3を用いて説明～

会 長： ありがとうございます。これについて委員の皆さんから何かご意見・ご質問はございますか？

小野委員： 伊達高校での出前講座の実施ということなんですけども、1年生の希望

者だけに講座をするっていうよりは、1年生全体で受けていただくことはできなかったのでしょうか。

事務局： 出前講座につきましては、伊達市の第3次総合計画にある基本目標等に分けて同時に7講座くらい実施し、その中で男女共同参画に興味のある方に受講していただいたという形になっております。伊達高校さんの方で企画していただいたものだったので、市の方ではそちらに従って男女共同参画の講座を希望した方に向けて講座をしました。

三浦委員： この親子料理体験というのはとても良い取り組みだと思うので、引き続き令和8年度以降もやってもらいたいなというのと、場所的などころも含めて、月舘もいいと思いますが、例えば保原のとまっぺとかそういったところでもできるので、近いところでやると集まりやすいと思います。当然会場の制限もあるので難しいと思うんですけど、いろんな形で展開していただければなというふうに思います。

大畑委員： この親子料理体験会というのは非常に良い取り組みだと思っておりますが、何か抱き合わせてやるともっと嬉しいかなと思っております。例えばですが、グラウンドゴルフやサッカーをやった後にみんなでカレーを作るとかというふうに抱き合わせてできるんじゃないかなって思います。保護者と親子だけじゃなくて、地域との輪と考えたときに、地域の方というところも、非常に良いんじゃないかと思いました。

そして、あまり理解していなかったんですが、プランがあって、それに対して何をするのかというのが各事業の取組で、それに対して今後どうしていきますかというのにアンケートがあるというイメージでいいんですかね。そうすると、アンケートと事業実施の時期に乖離があった方がいいのかなと思います。事業実施とアンケートの時期がだいたい同じなので結果が反映されにくいんじゃないかなというふうに思いました。

会長： 大体行政はアンケートの結果を次の年度の事業に反映させるみたいな形になりますので、もう少し早いほうが確かに次の年度の事業計画を立てるときにはいいのかもしれないですね。

齋藤委員： 私は、常日頃から提供されたものに対して参加していくことが多いんですけども、与えられてばかりのような気がして、集まった方々が、主体的に生きていくために市としてどんな事業を提供すればいいのかなということを考えています。例えば今回はカレー作りとありましたけれども、だんだん慣れてきたら、今度は参加した人たちが起点になって自分たちでやっ

たりとか、仙台におやじの会というバイタリティなチーム、住民たちがいるんですけども、そういうのを作って意識を高めていくっていうのがいいと思います。与えられているばかりではなくて、その与えられたところから今度主体的に何が生まれてくるかなっていうところもちよっと考えながら事業を開催にすることも大事なのかなと思っています。だから、もっと骨太になってくような事業ができたらいいのかなって、これは理想なんですけども、そんなところを考慮していただければと思います。

会 長： 参加者の方たちがつぎのステップを踏めるようなものを考えるということなんでしようけれど、何か皆様もアイデアがあれば、お出しいただければと思います。

三浦委員： 親子料理教室なんかでいうと、少し違う場面なんですけど、移住者交流会というものもやっています、それに参加してつながりができると、みんなでイベント行ったりとか、遊んだりとかするようになったんですね。この親子料理体験っていうのも多分同じ年代の家族が集まっていると思うのでそれをきっかけにしながら、新しい交流が生まれてくるとか、なかなかその後データ収集であったりとか、後追いとかはできないんですけども、そういったようなきっかけになるようななんじゃないかなと思います。

会 長： 自主的に交流の輪が広がるようなきっかけを行政がつくればいいのかと思うんですね。その後は、参加された方たちの思いなどもあるでしょうから、できるだけ場を提供する、きっかけを提供するという形で考えていけるといいですね。

会 長： みなさんほかにご意見はよろしいでしょうか。それでは「(3) その他(令和8年度男女共生のつどいについて)」に移りたいと思います。よろしくお願いたします。

～資料「令和8年度「福島県男女共生のつどい」の伊達市開催について」を説明～

事務局： 引き続き皆様にご意見いただきながら進めていきたいと思しますのでよろしくお願いたします。

会 長： それでは、協議事項は以上になりますが、アドバイザーである岡部さんにもご出席いただいておりますので、一言いただきたいと思ひます。

アドバイザー： 今日委員の皆さんからたくさんご意見出られてやっぱりいいなと

思って聞いていました。アンケートを取って、伊達市の状況を把握して、それを具体的な事業に生かしていくための素材にしてもらえたらいいかなというふうに思います。あと男女共生センターでやってる事業のうち、小中高に向けた出前授業もやっているのので、例えば市役所さんで行かれるのもすごく大事なんですが、希望する学校数がすごく増えすぎたときには、我々に振ってもらうのも一つかなと思いますし、さらに可能であればセンターに振るだけじゃなくて市も一緒に協働してやると、市の事業としても皆さんにご報告できるので、そういった方向性も考えていただければいいのかなと思いました。

会 長： ありがとうございます。それでは本日予定されておりました議事は全て終了となります。進行を事務局にお戻ししたいと思います。

司 会： 藤野会長、ありがとうございました。

### 3. 閉会

司 会： 本日は委員の皆様から貴重なご意見いただきありがとうございました。ご意見を頂戴しまして、こちらで検討しながら反映させていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。それでは以上をもちまして、令和7年度第2回伊達市男女共同参画審議会を終了させていただきます。誠にありがとうございました。